

## 「戦争犠牲者追悼、平和を誓う8・15集会」 あいさつ

8月15日、社民党を代表して、戦争の犠牲者に対して、心から哀悼の意を表します。

8月15日、ここ千鳥が淵墓苑で行なう追悼式は、すべての戦争犠牲者を追悼し、生きているわたしたちが、亡くなられたみなさんとお話し、平和を築いていく決意を新たにす式だと考えています。

今年は、日米安保改定50周年、そして、韓国併合100年のまさに節目の年です。

今こそ、日米安保条約の果たしてきた、そして、果たしている役割、意味を検証すべきときです。

今年の5月28日、日米共同声明が出され、沖縄の辺野古沖に、新たに基地をつくることに合意しました。沖縄県議会は、これに対して、全会一致で、沖縄の頭越しに決めたことに強く抗議をし、日米共同声明の内容を撤回するよう求めています。

社民党も全く同じ考えであり、辺野古に基地を作るという日米共同声明を撤回するよう強く求めています。

新たに基地がつくられようとしており、また日米の軍事的連携が強化されようとしています。一方で、それに対する反対運動も大きく広がっています。

当然のことですが、沖縄だけの問題ではなく、国民全体の問題にし、今までとは違う未来を切り開いていかなければなりません。大きな運動こそ、将来の希望です。

核のない世界をつくる動きも大きく進んでいます。

今年の広島での平和記念式典に、国連事務総長、74ヶ国の大使などが出席し、核保有国であるアメリカ、フランス、イギリスの大使も初めて出席をしました。

核のない世界を作る動きが大きく進んでいるのは、核廃絶のために、戦後65年間、血のにじむような思いをして、努力をしてこられたみなさんの成果ではないでしょうか。

核廃絶のために力を合わせていきます。また、原子力発電の海外輸出についてもしっかり反対をしていきます。

今年の5月、憲法改正のための国民投票法が施行になりました。衆議院では、憲法審査会のための規程がつけられました。参議院では規程はつけられていません。この憲法審査会を始動させないため、闘わなければなりません。

戦後の日本の貴重な財産である非核3原則や武器輸出3原則などを堅持し、さらにしっかりと発展させていかなければなりません。

今は、歴史の大きな転換点です。

普天間基地を返還させ、沖縄に新たな基地をつくらせない闘いに勝利し、基地の縮小の道を選択してくるのか、それとも基地を増やし、日米の軍事的な連携をより一層強化をする道を選択するのか。

日本が、核のない世界をつくる先頭に立ち、各国に対して軍縮を働きかけ、武器輸出3原則を世界に広める道を選択するのか、それとも非核3原則を緩め、武器を海外に輸出する国になる道を選択するのか。

憲法9条や25条の生存権などが輝く国になるのか、それとも憲法改悪を選ぶのか。

大きな希望がある一方で、大きな懸念や危機もあります。

それを決定するのは、わたしたちの力です。運動です。民主主義です。

だからこそ、わたしたちは、この8月15日、ここで、2度と戦争の犠牲者をださないという新たな強い決意をしたい思います。

戦争の犠牲になられたみなさん、わたしたちが、平和を築いていくことを見守り、平和をつくっていかうとするわたしたちに、どうか力を与えて下さい。

最後に、改めて、わたしたちは、戦争への道をつくせないとお誓い申し上げ、私の心からの追悼のあいさつとします。

2010年8月15日

社民党  
党首 福島みずほ